



奈良・人と自然の会

〈わたしたちは大和の自然を愛します〉



奈良・人と自然の会 会長 阿部和生

皆さま方には、清々しい新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

平成 22 年は、奈良県にとって遷都 1300 年を祝う記念すべき 1 年となるべく、数々の記念行事が、計画されています。それは、先人が異国の文化を国を挙げて吸収し、体制を整え都を作った遺構「平城宮跡」を中心として繰り広げられるでしょう。そこには燦然と輝く鴟尾を天空に突き出した「第一大極殿正殿」が完成し、「朱雀門」と相對しています。「古都保存法」などにより開発から守られた都心の広大な面積が主役です。

「奈良・人と自然の会」は、この平城宮跡を含む歴史的風土保存地区・奈良県第一種風致地区の一面 7.33 ヘクタールを 3 年まえから「景観整備」という形で参加し、引き続き活動しています。直接的な場所ではないのですが、整備の進行とともに すばらしい景観 に変貌しています。市街地に広がる平城旧跡を横切り二分する近鉄電車には、思わず顔をしかめます。都心での史跡保存と、地域開発のはざまで、難しい問題を抱えています。現状は受け止めながらも、奈良県という視点だけでなく、日本の文化遺産として考えることが求められるのでしょうか。

“奈良の未来をよりよい自然環境で次の世代に引き継ごう！”という出発から 9 年目を迎えています。この間 多くの会員の皆様の熱意と「会」の特徴である実践を重ねることにより様々な活動を行ってきたと思います。自然観察会、新春講演会、地域の皆様との協働・交流、青少年への体験学習、国有林の間伐整備そして県有地の景観整備などと多岐にわたっています。これらの活動内容をさらに深める一年 としてゆきたいと思います。

私たちの日常は、人工的なものに囲まれた生活です。流れゆく時代の変化を受け止め たくましい精神をもち活動してゆくためには、多くの人が時に立ち止り、自然と触れ合い、自然と親しみ、自然の恵を受け止め感謝する 豊かな感受性を育み保持することが大切であろうと思います。人も自然の一部であり共生していくことの大切さをさらに広めることができればと思います。

実践を通して会員の親睦をはかり社会貢献するという理念は、これからの活動のなかでもいささかも揺るがない原点です。

親しい仲間が集い、楽しい活動を行う、それらがいつしか輪を広げる、そうしたこと実行できるためにも 今年も私たちは健康に気を配り元気でありたいと願います。

前に楓の新緑の瑞々しい美しさに感動し、紅葉の頃は是非と思っていたので今回参加しました。

バスはぐんぐん登って紅葉真っ盛りの神社に到着。社殿の朱色と紅葉の赤 朱 黄色が競い合って美しい。重文の十三重の塔は少し恥ずかしそう。

西大門趾より冬野へ向う、展望が開けて金剛山と葛城山が見渡せ「裏側ですね」と言うとな良県人から「こっちからが表です」と言われて成程と納得する。一幅の絵の様な閑静な冬野を過ぎると凛とした良助法親王墓や素朴



な道祖神もあち峰山から遥遡るが皮しい。男された女い。見上眩しく輝神社を過ぎて綺麗な床



作物の豊穰と子孫

ここに。展望台で昼食、紅葉の向こうに大かに薄く弥山を望む。細谷川の清流を剥がれた丸太が放置されて、痛々淵へは通行止、皇極天皇が雨乞いを淵を探したが樹木の繁りで見れなげる里山は西日に映えて黄金色にいた。栢森に入り加夜奈留美命と里人達に会い暫し歓談。桜材を磨柱が作られていた。

繁栄を願った素朴でおおらかな勧請縄掛神事の女綱が大きく張り渡されていた。飛鳥川上坐宇須多岐比売命神社の長い階段に来るが誰も登らないのが残念！。飛鳥人も渡った飛び石を渡って左岸に出ると、今度は男綱が・・脈々と継承されてる事に畏敬の念を持つ。稲淵の里にはユーモラスな案山子が何人？か立ち、棚田百選の棚田の彼岸花は壮観ら

山々の紅葉を堪能しながら進むが来てマラ石の拝謁もそこそこ自分で休憩する。石舞台まで自分激励して漸く到着した。

回は境さんより児童との対応いて、子供の素朴な視点と大人定観念との違いや、ダレた時のゲーム等説明が有って参考になりました、有難うございました。



しい。回りの足も限界に座り込を叱咤今につの固簡単な

実施日：11月27日（金）晴れ

担当：境、寺田（孝）

参加者：豊島、岩田、宮澤、塩本、岸谷（和）、勝田、弓場、高橋、池田、辻井、井戸、西谷、川井、吉村、平岡、阿部、八木、谷川、山田、小嶺、林、守口、水本、境、寺田（孝）<25名>

12月例会「忍辱山円成寺から滝坂の道トレッキングと忘年会」

永井幸次

近鉄奈良駅より9時40分発の奈良交通柳生行きバスに乗り円成寺下車、朝礼後ストレッチ体操により体をほぐし出発、紅葉も終わりかけ落ち葉絨毯の道を歩いて10分ほど行った所で、最近まで行なわれた当会の実施した森林整備作業の歴史を弓場さんの解説で感慨をもって聴きました。やがて穏やかな坂を抜けると茶畑の中にずっと突き出た五尺地蔵が見えた所で地蔵をバックに記念撮影し、ほどなく時代劇を思わせる峠の茶屋に到着、家の鴨居にはケースに入った鉄砲と槍らしきものが掛けられていました。お昼を摂らせていただき出発、石畳の道を歩きほどなく首切り地蔵に到着、この石畳は江戸中期、奈良奉行の指示で造られた。地蔵の側には杉の巨木があり、歴史が走馬灯のように浮かんでくる。少し細い道に入りしばらく行くと昔使われていたドライブウェイに出た。広い道幅の両脇は樺や杉の巨木と紅葉の楓が短調な道を忘れさせてくれた。イズセンリョウが山側の土手にたくさんあったが、鹿が食べないので増える一方と。全行程終わりに近くに、妙見宮日蓮宗蓮長寺修行所があり、明治42年日昭上人によって開山、急な79段、さらに100段近くの階段を、元気ものの豊島さんを先頭に本堂まで登って拝観、3時前に高畑に到着し解散した。



<忍辱山にて>

12月例会と忘年会

担当：板橋 大石

日時：12月7日(月)

天候：晴れのち曇り時々時雨

行程：近鉄奈良バス～円成寺～峠～滝坂の道～飛び火野9:40～15:00 凡そ12km

参加者：古川祐司 弓場厚次

岩田利秋 谷川雅邦 宮澤喜代子

林令子 菊川年明 岸谷順裕、和代 永井幸次 八木順一

豊島すみ子 岡田勝夫 阿部和生 寺田孝 小森青道 小嶺敏勝

守口京子 勝田均 板橋宏昌 大石門三(21名)

不安定な天候が続き、またインフルエンザの猛威で3人の欠席連絡があり、あまり温かな冬の陽だまりは感じられず、寒い一日であった。過去に実施の東海自然歩道シリーズの第一回目のコースであったか、思い出を持って歩かれた人もあったのでは。五尺地蔵の先では当時遺跡調査中であったが、埴輪などが出現した由、現在は美しく区画整理された棚田となっていた。街道沿いでは名残の山柿や鶴の子柿が春までの小鳥さんの餌になるのではあろうか。その柿を巡る民俗誌、主食となる穀類が満足に栽培不能な山間部の人達は柿にしがみ付いて生きていた、と古書は記している。その一例「浪人の貧乏長屋での仕事」は柿渋の傘貼りであったとか。ご当地奈良盆地から山城の郷にはその柿渋の主産地であった。防水防虫効果で重要証文に塗り、しもやけやあかぎれ、止血化膿止めや、漆の代用品としての利用、悪用としては鮎や鰻の・・・、近現代的には酒の清澄剤(出来上がった酒の中に蛋白質があると腐敗しやすいため柿渋で除去する)や風船爆弾(柿渋で紙を処理すると電波探知機に探知されない)酒醤油の絞り袋や魚網への使用や工芸的には金沢仏壇での利用などそれぞれ循環型生活の一環として重要な位置を占めていた。その柿渋は醗酵によりなり、明治時代に科学的に解明されている。つまり結合性タンニンで酸や酵素で加水分解されず酸化あるいは重合により難溶性の高分子となり強じんな皮膜を作ると。麴、酵母そして柿渋とこの風土が醸し出し、育てた郷なのかと感慨にふけたトレッキングであった。

夜5時から飛び火野近くの万葉荘での忘年会、27名が時間も忘れて打ち解け酒を交わし、来るべき新しき会の春を待ち望み散会した。

ならやま梅林 あれこれ

大石門三

小春日和の11月21日、南高梅13本と小粒南高4本が定植され、「ならやまに梅林を」という夢が現実へと大きく進みました。梅林となったこの場所、2年前は4mを越す笹原でした。いま、皆さんの努力で、整然とチドリ状に植栽された16本の「南高梅」梅林を眺めて、これが咲きそろそろ早春の景色に思いを巡らせているところです。

「梅」は学名を *Prunus mume* とシーボルトが命名し、原産地は中国で奈良時代以前に渡来したと言われていました。今でこそお花見といえば桜に代表されますが、奈良時代の花は梅を指すことのほうが多かったようです。学問の神様、菅原道真がこよなく愛した梅は天満宮の神紋になっています。春寒料峭朝まだき、寒さの中凛として気高き香りと清楚な花卉の梅は、日本人の花の原点、自然と対話する心の原点でしょうか、宣なる哉。一方、生活の中では、観梅から、梅干、ジュース、薫蒸して真っ黒になった烏梅は漢方薬として利用されています。年間12万トンの生産量のほぼ半分は温暖黒潮の流れる和歌山県で、ご当地奈良県は2000トンと全国第三位を誇っています。

梅については、かねて存じ上げている日本一の梅の先生、前・南部高校教諭谷口充先生にご相談し、貴重な勘所のアドバイスを戴きました。その主要点を列記しますと、

- 1: 植えた品種の自分自身の花粉では結実出来ない性質（自家不和合性）も持っている為、受粉樹として他の品種（2品種以上、主品種との開花期が一致するもの）の混植が必要
- 2: 虫媒花なので立地条件として地形的に季節風が少なく、開花時間中日射量が多いこと
- 3: 土壌の通気性要求度が高く、排水対策をしっかりとしておくこと
- 4: 土壌の適正pHは6.5～6.8であり中性に近いほうがよく育つ（因みに、ならやまは6.5）
- 5: 砧木は完全交配種子を使用する

（主品種の南高梅の受粉樹として小粒南高とイバラ早生をご紹介いただき、砧木に使う完全交配種子と穂木の提供を受け、和歌山県紀の川市の育苗苗業者「小坂調苗園」に依頼した）

ベースキャンプ周辺の活動場所は、なだらかなお椀の底のような地形で、正に梅の栽培地として打ってつけです。田んぼ跡地で表土が浅い為、排水も考慮して植え床は盛り上げ方式としました。間隔は、7mが基準のところ多少詰めて16本を植えました。整地作業に参加していただいた奈良県立大学インターンの学生さんにも、別途もう1本を記念植樹していただきました。

「桃栗三年 柿八年 柚の馬鹿野郎十八年 梅はすいすい十六年」と言いますが、この苗は接ぎ木苗ですから、おそらく、来春には花が咲くと思われます。また、二年後には多少の収穫も可能でしょう。ちなみに10アール当たり20本植えて、最盛期で700kgから多い所で2500kgもの収穫があるそうです。2500kgもの収穫とは、思わず顔がほころびますね。何とか、そんないい「塩梅」になって欲しいものですが。



盛り上がった「芋煮会」 — 桜島大根重量当て…山中笙子さんズバリ賞！—

ならやまプロジェクト農園Gr世話役 鈴木末一

12月19日、日本列島に今冬一番の寒波が到来したが、ならやまのキャンプ地はぼかぼかの陽だまり、会員、ビジター約60人の参加のもと、ならやま名物の収穫祭「芋煮会」が開催された。

収穫祭は、「芋煮鍋」をメインに、好評の「赤米おにぎり」、そして「桜島大根」を主役にした「おでん鍋」、カッポ酒、桜島大根クイズなど盛り沢山なイベントとなった。

「ならやま」の里芋は風味豊かで、今月初め頃から「いつ収穫しますか」「予約できますか」と注文殺到する作物中ベスト1のリクエスト品目である。引続きご要望にこたえるためには、連作傷害の出やすいものだけに、畑のローテーションを上手くするなど、栽培管理に更なる工夫が必要となる。

手始めの里芋掘りは、インターン実習にきている奈良県立大学生4人が、中西達夫さんの指導で120個余りの里芋を収穫。中西さん手作りの「芋洗い機」で瞬く間に洗い上げる。芋煮は西谷さん・豊島さんがリーダーとなって女性陣が奮闘、まず2つの大鍋を炊きあげる。続いて、「桜島大根のおでん鍋」。傍らでは、発電機が力強い音を立て、電気炊飯器が赤米を炊いている。

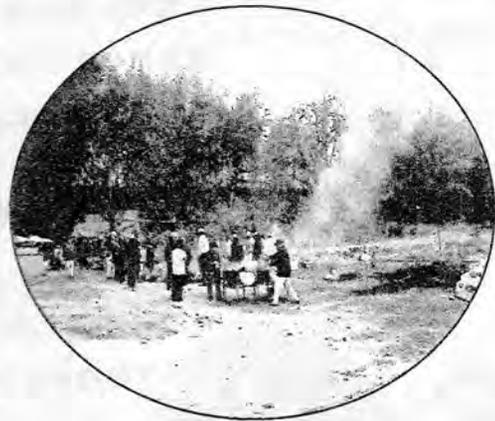
12時、阿部会長の開会挨拶に続き、川井顧問のご発声による乾杯で「芋煮会」がスタート。心のこもった芋煮に「美味しい」の声があちこちで沸き上がる。お世辞ではなく、本当に今年一番の味わいだ。水本さんご自慢のカッポ酒の熱燗も体中に沁みわたる。

会が盛り上がりを見せる中、「桜島大根重量当てクイズ」が始まる。30株余りの中から最も大きそうな1株を選んで全員が投票。中には思わず持ち上げようとする人もいて、その表情は真剣そのもの。公正公平でなければとの思いで見張り役になる。

いよいよ「桜島大根」の計量、全員が注目する中、結果は「7.5kg」。山中笙子さんが、物の見事にズバリ賞に輝き、阿部会長から「ドリーム賞」を授与された。大石さんと中西（夫人）さんが、僅か0.1kg差でニアピン賞を獲得、巨大な桜島大根が景品に。

続いて、漢字「植物名」と「地名」クイズを実施。二人の奈良県立大学生が、「木通」「辣蕒」の名を答え、一同感嘆の声が上がる。漢字離れが危惧されている昨今、大拍手を受けて学生達は、景品の赤米を手にもVサイン。その他、植物の問題は「馬酔木」「大蒜」「葱姑」、地名は「蛇穴」「膳夫」「外山」「今国府」「吉隠」「忍阪」「生琉里」でした。（答えは、最終頁に掲載。）

美味しい作物は、難しい有機・無農薬栽培に汗を流した会員の方々の情熱があったからです。天地の恵みに感謝しつつ、お互い来年に向けて更なるチャレンジをいたしましょう。



奈良県立大学 地域創造学部 インターン生
「ならやま」体験実習を終了いたしました

弓場 厚次

10月29日より当会では初めて奈良県立大学生の学外授業の一環として体験実習を受け入れ、12月19日無事に終了いたしました。研修日数は4日間の8コマと短期間ではありましたが各コマのご指導をいただきました講師の皆様には厚く御礼申し上げます。



『里山の景観を守ろう』がテーマにインターン生にとり未知の充実した体験実習を経験いただき、毎回のレポートにはその成果がきっちりと記載され、学内での発表会では報告が義務づけられ、授業の一部として単位の認定に結びついております。インターン生は初々しく学習意欲に燃え、楽しく作業に進進頂きました。なを、今回の研修に際して奈良県農林部発行の一小学生用副読本「森林とわたしたちの生活」(インターン生に失礼でしたが)奈良県内の資料が中心で森林・環境の学習には最適でした。

インターン生 : 賞井 沙緒里 田村 雅世 中山 文平 小塚 勇征 (4名)
体験実習のテーマと指導者 総括担当: 弓場

実施日	am	テーマ	pm
10月29日(木)	オリエンテーション(阿部・川井・古川)	南高梅 植付け床整備作業(古川浩・古川祐)	
11月26日(木)	竹林(孟宗竹) 整備作業(水本・竹本)	ピオトープ設置整備作業(塩本・甲斐野)	
12月10日(木)	里山林・杉林整備作業(坂橋)	耕運機操作と運転実習作業(鈴木)	
12月19日(土)	里芋掘りと芋洗い(古川浩・中西)・他	ならやま観察路・観察会(守口・林)	

自然俳句欄

飛び石の一つ一つにのる冬日 秀夫

11月例会。談山神社から奥飛鳥を経て石舞台へ。
飛鳥川を渡る飛び石に柔らかい日差しが包む。
見返れば、全山に見納めの秋色が広がる。

稗剪るや白頭鶯の技一本 秀夫

里山林。5米に及ぶ篠竹の藪を剪り込む。
シニア仲間の技と力、素晴らしい雑木林に変貌する。
鶯に擬人化してみた一句。

植生調査及び教育実習生受け入れ報告

小嶺 敏勝

今回、植生調査と自然大学教育実習の経緯と現況を報告します

奈良県が古都保存法により取得した歴史的風土特別保存地区の中にある佐紀町、奈良坂町にまたがる7、3ヘクタールを景観形成保持事業として県と締結した。

これを機に荒廃した里山（手入れなく長期に放置され植生の遷移や、竹林の暴走的な拡大、笹藪の拡大等）を景観形成するに当たり、ボランティアだから調査等は要らない、早く見た目に綺麗にすべき、との意見も強かった。しかし、当会の会員の多くはNPO自然大学で自然に関して考え学び、他の会員も自然を愛し昆虫、植物、野鳥、地質等々造詣深い会員が多くレベルは高い。最終的に現状を具体的なデータで把握し記録する事が幹事会で了承された。その意義は

- ① この地は長期的に観察が可能である
- ② 平城京址と春日原生林に挟まれた貴重な市街地の近くの里山である
- ③ どの程度の遷移が進んでいるか
- ④ 現在の二次林の健康度はどの程度か
- ⑤ 現在の肥沃度は、

その他、ha 当たり本数、平均樹間距離、過密度、常緑樹と落葉樹の比率等、調査により客観的に知る事が出来、今後この里山の健康度を上げる為の貴重なデータが得られます。

具体的にはA地区（0.5haの半部は毎木調査、本体のD,E地区（約6ha）は9ポイントを選定（10m・×10m・）樹種、胸高直径、その他を昨年度はA地区を終り、今年度はD地区の5カ所ただいま進行中です。

自然大学の教育実習生を受け入れに当たり自然大学での他の研究科、クラブ等では本調査をしている所は無く、当会の特徴として受け入れる事に成りました。

そこで毎回スタッフ3～5名と自然大学の実習生4～10名が、昨年9月から月1回、現在迄、延べ114名で実施しました。12月現在652本、42種の調査が終わり残り5回程度で当会の領域の調査は終了の予定です。今後、このデータは専門の助言も頂きながら最大限に活用したいと、考えています。（調査班 林、守口、岩田、寺田孝）



<ならやまのシンボル・ツリー>



ならやまプロジェクト・レポート 21年12月

(古川 祐司 記)

11月21日(土) 晴 リースとバウムクーヘン作り 梅の定植 菜の花除草 参加者63人

- ・リース作りには16名が参加。自然の素材だけで作るものだが、参加者の自由なアイデアでそれぞれ個性的な作品に仕上がって、指導に当たった西谷さんも驚くような素晴らしい力作も見られた。バウムクーヘンは豊島さん秘伝の生地作り裏技があるらしい。初めてという焼き手だったにもかかわらず、姿、焼き加減ともに立派に一人前、ことに味と風味については市販ものを上回るとは、おすそ分けいただいた者達のもっぱらの評判でした。
- ・ならやま梅林に17本の梅の若木が定植されました。梅の苗は日本一の南高梅。大石さんのお世話で一年がかりで準備したものです。早ければ22年の早春には花も咲くとのこと。梅の実はその翌年には期待できそうですから、ならやま景観上のチャームポイントになるかもしれません。今後も大切に世話をしていきたいものです。
- ・菜の花プロジェクトのメンバーは、苗の一本仕立てと除草作業。小春日和の中昼過ぎまでの作業で、雑草に埋もれていた畑は、元の素晴らしい菜の花畑の姿を取り戻しました。

11月26日(木) 晴 山の日 c地区笹藪Ⅱ整備 ビオトープ工事 参加者 34名

- ・c地区笹藪Ⅱはフィールドに最後に残った個所で4mにも達する笹の密集地はなかなか手強い。昨年度の実験から、作業の体制や手順が改善されたため、仕事は思いのほか捗り、来年2月末の完了目標にも自信が持てそうです。

12月10日(木) 曇り 臨時山の日 水路沿危険木伐採 c地区笹藪Ⅱ整備 参加者31名

- ・3日の雨天中止もあって、奈良県立大インターン生も含めて31名が参加。コナラは50年前後と老齢化が進み水路を覆う危険な状態の木を伐採する。作業はベテラン中心の2チームが慎重に行う。間伐材はシイタケのホダ木として2~3月に植菌する。

12月14日(月) 晴れ 野鳥調査 参加者7名

12月17日(木) 晴れ 山の日 危険木伐採 c地区笹藪Ⅱ整備 掲示板建て替え 参加者29名

- ・前回に続き間伐と笹藪の整備。ビオトープPTはJR側の水止めと土盛り作業に汗を流す。
- ・掲示板は、記事を読んで入会されるケースも増えているので、PRの充実を図る狙いです。

12月19日(土) 晴 芋煮会 参加者 53名 (シニア大実習生10名、奈良県立大生4名)

- ・今年を締め括る収穫祭「芋煮会」は、53人が参加するの盛会となりました。一年の活動を語り合い、素晴らしい自然の中で活動できる健康と、仲間の有難さを確かめました。
- ・収穫祭の主役は、掘りたてのサトイモをふんだんに使った名物の「芋煮鍋」。豊島さん、西谷さんの料理の腕がさえて、去年より一段とおいしくなった、とはもっぱらの評判。また今年初めて栽培した桜島大根が鍋一杯の大根炊きとなって登場、銘々が持ち寄った具材も入れ込まれて、野趣あふれた山賊鍋風に仕上がりました。
- ・水本さんお得意のカップ酒を酌み交わしながら、若い世代の奈良県立大インターン生や、シニア大実習生も加わって、食べるほどに、飲むほどに、ならやまの自然の素晴らしさ、ここに集まる仲間の大切さを感じる一日となりました。(関連記事 別掲) 午後3時終了
- ・23日の迎春準備の作業で年内の活動は終了。メンバーの皆さま、どうぞ良い年をお迎えください。

ならやま里山林自然観察レポート

* ならやまの昆虫……冬 *

菊川年明

冬の昆虫はみなそれぞれに寒さに耐えてひっそり過ごしています。昆虫の冬の過ごし方は大部分が蛹、幼虫、あるいは卵で、成虫で越冬する昆虫はさほど多くありません。成虫で越冬するものでもその大部分は朽ち木の中や地中でじっとしています。

成虫で越冬する昆虫の中にチョウが何種類かいますが、チョウの成虫はその形態から朽ち木の中に潜んだり、地中に潜ったりはできませんから、風の当たらない比較的暖かな場所を選んで身を縮めるようにして寒さをしのいでいます。

ならやまにいる成虫越冬のチョウはルリタテハ、キタテハ、アカタテハ、ヒメアカタテハ、クロコノマチョウ、テングチョウ、キチョウ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミなどです。暖かい穏やかな日にならやまでよく見かけるのはルリタテハ、キタテハ、テングチョウ、ムラサキシジミなどで、日溜まりで日向ぼっこをしている姿が見られます。太陽熱を最大限に取り入れるために羽を精一杯に広げています。

ムラサキシジミは小振りのチョウで、暖かい季節には羽を畳んで止まり、くすんだ褐色の面（表面）しか見せませんので、全く目立ちません。しかし、冬は日光を精一杯浴びるために羽を広げて止まりますから、光り輝くたいへん美しい青紫の羽（裏面）が見られます。幼虫の食餌はカシ類ですから、カシの木の茂る付近に多くいます。

チョウのほかで、ならやまで見られるかもしれない成虫の越冬昆虫（朽ち木や地中のものを除く）としてフクラスズメ（ガ類）、ホソミオツネトンボ、ツチイナゴ、クビキリギス、テントウムシ（ナミテントウ）、ナナホシテントウ、イタドリハムシなどが挙げられます。

フクラスズメは少し大きい方に属するガで、風の当たらない木の幹などにじっと止まっています。見えている方の前羽は木の幹と変わらない色をしていますので、いても気付かないかもしれません。

ホソミオツネトンボはイトトンボの仲間です。「オツネン」とは「越年」のことで、近縁種のオツネトンボとの2種類だけが成虫で越冬するトンボです。冬の間は羽を畳んで枯草の茎などにじっと止まっているのが普通ですが、飛んでいる姿を見かけることがあります。

ツチイナゴはトノサマバッタくらいの大きさのバッタです。冬の間も草むらの中に潜んでいて、のっそり姿を現すことがあります。バッタの仲間成虫越冬するのはツチイナゴだけです。

クビキリギスはキリギリスの仲間です。5～6センチの大きさです。夏の間は背丈の高い草むらなどでジーと鳴いていますが、冬は建物の軒下などにじっと止まっているのを見かけます。緑色型と褐色型があります。

ナミテントウやナナホシテントウは暖かそうな場所で越冬します。ナミテントウはたいがい集団越冬です。ナナホシテントウは草むらからひょっこり現れることもあります。

イタドリハムシは草むらの根元の方で越冬しています。ハムシの仲間ではヨモギハムシを見かけることもあります。

成虫ではありませんが、ササの茎などでオオカマキリの卵囊をよく見かけます。ピンポン玉くらいの大きさで独特の形をしています。春日の暖かさが定着する頃に仔虫（幼虫）がたくさん出てきて、小さいながらも鎌を振り振り散らばっていきます。見つけたら、持ち帰って植木鉢などに刺しておき、仔虫の誕生を観察するのも楽しみなものです。

（写真は日溜まりで日光浴をしているテングチョウ）



ならやま里山林花だより

守口 京子

12月17日(木) 落ち葉が降り積もり、冷たい風が吹いて冬がやって来ました。寒さの中でもたくましく咲く花があります。面白い冬芽を付けて春の準備をしている植物もあります。花壇・野原…ヒメツルソバ、サザンカ、ホトケノザ、ナズナ、イヌガラシ、ダンドボロギク、イヌホオズキ、ヒメジョオン

黄葉・落葉…コナラ、クヌギ

冬芽…オニグルミ、タラノキ、クロモジ、コバノミツバツツジ、アセビ、ヒサカキ

いつも通っている道なのにまだ知らなかった植物に出会うのは楽しいです。最近見つけたのはハンノキです。遊歩道沿いに大きなのを1本と、C地区で藪刈りをしているときにたくさん見つけました。特に藪から出て来たのは、3m程の藪に攻められ、つる草にからみつかれ、やせ細っていますが、健気に実を付け冬芽も付けています。「よく頑張ったね。」と言ってやりたいです。赤い花をひらひらと咲かせるのももうすぐでしょう。



カワラヒワ

小田 久美子

繁殖期以外は「チューン」「チリチリ、ココロ」と可愛い声で鳴きながら群れで行動し、春には「ピーン、ピーン」と梢でラブコール、奈良県では周年街なかでも見られる身近な鳥です。アトリの仲間なので太い嘴でヒマワリなどの硬い実も割って食べます。名前の通り河原や畑などで群れをなして採餌していると、大きさが同じなのでスズメのようですが、翼には鮮やかな黄色が隠れていて飛ぶ時にはぐーんとスズメさんとの差をつけます。数が少なかったら確実にカメラマンに追い回されるだろうと思うお洒落な装いの鳥です。



ならやまの鳥調査が一年経過しました。今年はその鳥たちでお話を進めたいと思っています。その中でスターの国鳥「雉」は8月に登場したばかり。あとの出番は決まっていますのでお正月にはちょっと地味なのですが、通年出会えましたカワラヒワさん初登場決定!!

神農さんのササ（張り子の虎）

神 農祭（11月22、23日大阪道修町）に際して有名なのは、神社で授与される五葉笹に付けた張り子の虎で、神農祭のシンボルになっています。

この由来は、このササにつけられたお札に、次のような説明がなされています。

「文政五年の秋、疫病（コレラ）流行して万民大いに苦しむこれにより、道修町薬種商相議り、疫病除薬として虎頭骨等を配合し、虎頭殺鬼雄黄圓（ことうさっきうおうえん）という丸薬を施与すると共に張り子の虎を作り、神前に祈禱を行い、病除御守として授与する。

五葉笹

学名 *Shibataea kumasaca*

日本名 オカメザサ

科名 イネ科

日本語別名 ゴマイザサ（五枚笹）、ブンゴザサ（豊後笹）、メゴザサ

漢語別名 五葉笹（ゴヨウセイ, wuyeshi）



<癒しの散歩道>

初春の船出

谷川 萬太郎

雲海の狭間より顔を出した 未来を仰ぐあけぼのよ
 やがて冴えわたる碧空を彩る ビームのオーロラが
 生まれたてのまばゆい光と影のシルエットをつくる
 新しき自然の力が湧き出てる泉のように涼涼と流れ
 豊かな恵みを養め湛えその優しさを胸に抱きながら
 明日をになう心ときめく世界を追いかけて進みゆく

ちいきじょうほう

(榎原)お茶の間バードウォッチング掘りごたつに入り庭を眺める。アオジのアオちゃんがウメの枝に止まり「チッ チッ」と地鳴き。よく顔を見たら「チッ・・・」のとき嘴はあまり開けてない。「ふーん ああいう風な感じでチッ・・・と鳴いているんだな」と。(斎藤)

(御所)11月末隣の畑からキジが「ケーン」と鳴き飛び出てきた・・・「おっ とびっくり！」そしたら帰りはうちの畑からメスのキジがバタバタと目の前を飛ぶ。キジの日でした。(斎藤)

(斑鳩)12月15日イカル5羽が観音さんのところにいました。斑鳩の人たちは斑鳩の鳥に興味があるようで、「どんな鳥ですか？」とよく聞かれます。

関心が強いですが、知っている人は少ないようです。(勝田)



イカル



原則：前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率(午前)60%以上の場合は中止

『ならやま里山林プロジェクト1・2月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所： 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林 (JR 平城山駅下車徒歩10分)
 ー「ならやま会館」前の道路(ならやま大通り)の南側に広がる林地ー
 (案内地図が入用の方は、担当幹事までご連絡下さい)

日時： 1月 7日(木) 初出と餅つき
 1月11日(月) ならやま野鳥調査の日(小雨実施)
 1月14日(木) 臨時山の日(希望者のみ)
 1月16日(土) 新春講演会
 1月23日(土) 一般活動日・教育実習生
 1月28日(木) ならやま山の日(里山整備、椎茸ホダ木玉切り)
 1月31日(木) 雨天予備日
 2月 4日(木) 一般活動日
 2月 8日(月) ならやま野鳥調査の日(小雨実施)
 2月11日(木) 臨時山の日(希望者のみ)
 2月20日(土) 一般活動日・教育実習生
 2月25日(木) ならやま山の日(里山整備、椎茸菌打ち準備)
 2月28日(日) 雨天予備日

集合： 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

交通： ①近鉄奈良駅 バス13乗場8：23発 高の原行 (平日・土曜)

②近鉄高の原駅 バス1番乗場8：32発 JR奈良行(平日) 8：30発 JR奈良行(土)

① ②とも佐保台西口、または平城大橋で下車 徒歩約7分

携行品など：・弁当、飲み物、軍手(作業用具は現地にて用意) 服装は防寒にもご留意下さい。

*環境保護のため、コップ・箸・椀は各自でご用意下さい。

活動内容：・里山林整備、環境整備、植生調査、放置田跡の笹刈、花木植栽等の景観形成

復元田畑の農事作業、除草、有機栽培のための堆肥作り、土作り

*自由活動日について：

火曜日、金曜日を「ならやま自由活動日」とします。活動される方は担当幹事までご連絡下さい。

*担当幹事： 古川 小嶺 岩田

***ならやま野鳥調査**～野鳥の会奈良支部・川瀬支部長のご指導による～

☆日程：1月11日(月)

★出発時間・場所：9時・ならやま駐車場

☆小雨決行。判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。中止の時は次週に順延。

★担当者：小田 ・菊川

1月例会「**新春講演会**」 <詳細は別紙「ご案内」を参照ください>

日時： 1月16日(土) 午前10時より12時

会場： 奈良市中部公民館4階第4講座室

講師： 渡辺弘之氏(京都大学名誉教授)

テーマ： 「森林はどう扱い どんな森林を作るのか」

*午後： 渡辺先生ご指導による奈良公園と春日山原始林の観察会(午後1時：近鉄奈良駅前行基像前集合)

担当： 阿部 ・古川

<2月の予定>

2月例会「**大和川の野鳥観察会**」

日程：2月17日(水)

集合場所・時間：近鉄平端駅 9時30分

観察場所： 大和川平端近辺

担当： 小田 ・勝日

*詳細は会報第97号(2月号)でお知らせします。



平成21年12月度幹事会議事録

日時：12月8日(火) 13:30～15:30

場所：奈良市中部公民館

出席：16名

司会：水本 書記：大石

「報告事項」

- 1 会員動向：108名
- 2 ならやまプロジェクト：
参加人数187名(前年同月96名)定例3回、臨時3回 鳥の日1回
- 3 11月例会奥明日香：参加者25名 *例会報告は自主的に手を挙げるのが望ましい。
- 4 佐保台幼稚園来訪：里山で参加者32名。芋汁、リース作りとも好評。
- 5 奈良県立大学インターン生受け入れ：11月26日午前竹間伐、午後梅植栽とピオトープ作り
- 6 生駒市環境シンポ：11月15日3名出席(木村、八木、寺田)平城山の四季を写真中心に展示。

「確認事項」

- 1 新春講演会：1月16日(土)10:00～12:00 奈良^市中部公民館 講師：渡辺弘之(京都大学名誉教授)テーマ：森林をどう扱い、どんな森林をつくるのか
- 2 ホームページ：担当境さんに引き続き更新をお願いする。
- 3 自然大学進路ガイダンス：1月24日(日)小嶺、大石出席
- 4 三井物産助成金報告会：1月28日～29日に実施 阿部会長、古川出席

「討議事項」

- 1：会報100号誌記念号：記念号として別途発行。広く会員に参考資料、写真など提出をお願いする。なお「想いでの記、あゆみ」として以下各氏に執筆依頼中(齋藤会長、川井顧問、阿部会長、樋口、寺田正、有本、弓場、豊島、小田)
- 2：3月例会：2月28日実施、予備日3月3日
- 3：会報1月号印刷日：12月25日(金)

当会報5ページの「芋煮会」文中での難読漢字「植物名」「地名」の回答です。「あせび」「にんにく」「クワイ」「さらぎ」「かしわて」「とび」「いまごう」「よなばり」「おっさか」「ふるさと」

編集後記：*本年もよろしくお願ひ申し上げます。5月には会報100号誌記念号を発行いたします。資料・写真等お持ちの方はご協力ください。*今月の会報の写真は、阿部・古川(祐)・弓場・板橋の皆さんから提供いただきました。*会報発送作業：会報2月号の作業は1月25日(月)です。「奈良県西奈良ボランティアセンター」で午前9時からです。ご協力お願いいたします。

編集担当：勝田 均

TEL&FAX

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生



奈良・人と自然の会

新春講演会 ご案内

2010年の輝かしい初春、恒例の新春講演会は「ならやま里山林」の景観形成保持をはじめ、奈良の元気な森林づくりを目指して活動するために、京都大学名誉教授 渡辺 弘之先生をお迎えして特別講演会を開催いたします。

多数のご参加を頂きますようお願い致しております。

記

日時：平成22年 1月16日（土）午前10時より12時

奈良市上三条町23-4

会場：奈良市中部公民館 4階 第4講座室

テーマ 『森林をどう扱い どんな森林を作るのか』

- * 森と林、人工林と天然林(自然林)の違いなど森林について考えてみる
- * 里山ではどんな森林をつくるのか、どんな目的をもたせるか
- * さらには、害獣、ナラ枯れ(カシノナガキクイムシ)問題など、森林にまつわる多様な話題を話し合います

講師：京都大学名誉教授 渡辺 弘之 先生

講演会終了後、午後1時より渡辺 弘之先生のご指導で奈良公園及び春日山原始林の観察会を実施いたします。

講師：京都大学名誉教授 渡辺 弘之 先生

* 観察会のみにご参加の方は午後1時に近鉄奈良駅前行基像前に集合下さい。

持参物：観察用具 飲物 防寒対策

* 当日の観察会は、雨天(午後の降水確率60%以上)の時は中止いたします。



担当 阿部 和生

古川 祐司